

県立大学基本構想（素案）

佐賀県

目次

建学に向けた想い.....	- 3 -
1. 基本理念（建学の精神）	- 8 -
(1) 次代を構想する人材の育成	- 8 -
(2) 「道を究める」研究環境の創出.....	- 8 -
(3) 地域との共生と社会貢献.....	- 8 -
(4) チャレンジし、成長し続ける大学.....	- 8 -
2. 大学の名称.....	- 9 -
3. 育成する人材イメージ.....	- 9 -
4. 教育内容・方法	- 10 -
(1) 学部の構成イメージ.....	- 10 -
(2) 特色ある教育手法	- 11 -
① 実践的なカリキュラム.....	- 11 -
② 県内企業との連携.....	- 11 -
③ 他大学との連携.....	- 11 -
5. 場 所	- 11 -
6. 開学時期.....	- 12 -
7. 運営主体.....	- 12 -
8. 佐賀県出身者の受け入れ	- 12 -
9. 「新しい大学像」への挑戦.....	- 12 -
(1) キャリア教育・就職支援	- 12 -
(2) リカレント教育	- 12 -
(3) 子どもがふだん使いできる大学.....	- 13 -
10. その他.....	- 13 -
大学院の設置.....	- 13 -

建学に向けた想い

「身を修め 智を開き 技を磨くのは、自奮勉強の力あるのみ」

明治政府初代文部卿として「学制」を定めた大木喬任の言葉です。

自らの身を立て、志を立てることが大切であり、その実現に向けては、自らの気持ちを奮い立たせて学ぶことの重要性を看破していた大木のもと、教育制度が形作られ、近代日本は大きく飛躍を遂げていきます。

大木喬任に先立ち、文部大輔となった江藤新平、早稲田大学の創設や女子教育に心血を注いだ大隈重信など、佐賀出身の偉人が教育を重視したのは、佐賀藩藩校「弘道館」の存在をなくして、語ることはできません。

ほぼ全ての藩が藩校を有している時代、鍋島直正公のリーダーシップのもと、実践的な教育を進めてきた弘道館は、先が読めない、大きく価値観が変化した時代を鳥瞰力と構想力をもって、飛躍する人材を育成した傑出した藩校でした。

佐賀から育った人材が、日本中に教育を広げ、現代日本の礎となりました。

そして、20世紀に入り、戦後復興、高度経済成長期においては、地方には仕事が少なく、地方で学んだ多くの人材が都市に移り、活躍することで、日本の成長を支えてきました。

「人口増加社会の中、仕事がない佐賀に対し、人材不足の都市」—この構造のもと、佐賀から多くの人材が県外に活躍の場を求めたのです。

しかし、この構造は20世紀末には変化します。日本が少子高齢化を迎え、安定成長期になり、サービス業が発達する中、地方にも多くの仕事生まれ、人材を必要とするようになりました。

この時期、多くの都道府県が公立大学を開学し、地域で求められている人材の育成・確保に取り組みました。平成元年に全国に39しかない公立大学は、平成の30年間に急増し、いまや100校となり、近年は地元の私立大学を公立化する動きも見られます。

いずれの公立大学の経営も安定しており、いまや、地方自治体がかつての藩校のように、地域で高等教育の充実に取り組み、必要とされる人材の育成・確保に取り組んでいます。

佐賀県はこの点で大きく立ち遅れました。

平成4年から18年までの間に、2度の検討がなされました。その際、大学設置の必要性を認識しつつも、大学制度改革や地方税財政制度に関する三位一体の改革など、いわば国の制度改革を理由に大学設置の決断には至りませんでした。

しかしながら、同じ時期に、ほとんどの都道府県は大学設置の決断をしています。長崎県は、大学の数が4から8に倍増し、その結果、長崎県内の高校生が長崎県内の大学に進学する割合が、倍増しました。

佐賀県はこの間、佐賀県内の高校生が佐賀県内の大学に進学する割合は、ほとんど変わっていません。

これは、意欲ある若者が県内で活躍できる機会を失ったという点で、大きな機会損失です。

産業構造は変わりました。佐賀にも多くの仕事があります。

「人口減少社会の中、仕事がある佐賀であり、人材不足の佐賀」に変わっています。さらに、人口減少社会、少子高齢化、グローバル化に加え、AIやICTによる加速度的な技術革新という変化が目の前にきています。

オンライン診療、自動運転、ドローンの活用、ロボットによるサービス提供など、日常生活、仕事、レクリエーションなど、人の営みのあらゆる場面に加速度的な変化をもたらしており、すでに既存の制度やライフスタイルに変化を促すほどのものとなっています。人とは何か？そうした根源的な問いに対する答え探しに、われわれは直面しています。

都市と地方の関係も変わろうとしています。東京などの大都市のみが世界につながる時代から、日本のどこにいても世界につながる時代が変わろうとしています。大都市のみがイノベーションや新たな価値を産み出す時代から、地方でも価値を産み出す時代が変わってきています。

こうした時代の変革期にふさわしい人づくり、教育の在り方を、私たちは今一度、真剣に考えてみる必要があります。

大学の在り方も変わってきています。

小中高の在学者数は減る一方で、大学への進学者数は、女子の進学が増えていることもあり、今なお伸び続けています。

伝統的な文系と理系を明確にわける学部構成だけでなく、複数の学問領域を横断的に学ぶことができる大学が増えています。

医師、弁護士、教員といった専門資格・免許と結びついた教育ではなく、コミュニケーション能力、リーダーシップ論、マネジメント論、AI・ICT活用など、時代がどのように転換しようと、生き抜く力を育むことに力を入れる大学もでてきました。

こうした取組は、「人づくり」「教育」に対する原点回帰という面もあります。

時代も大学も変化しています。「人口増加社会の中、人材を送り出し続ける佐賀県」から、「人口減少社会の中、求められる人材を育成する佐賀県」に、今こそパラダイムシフトを図るときです。

佐賀県の子供の数の割合は、この25年、全国の都道府県の中で上位3位以内に位置しています。一方で、大学進学率は約40%であり、全国平均の56%を大きく下回っています。子供は多いにもかかわらず、そもそも大学に進学する子供が少ない。

これは、県内の大学がわずか2校と都道府県の中で最も大学の数が少ないことと無関係ではありません。

県内での大学進学の実選択肢が増えることで、これまで大学進学を諦めていた高校生や、必ずしも希望ではなかった県外の大学に進学していた高校生にとっては、新たなチャンスとなります。

「機会損失から機会創出へ」。これまで大学がなく、機会損失が生じていた佐賀県だからこそ、大きな伸びしろがあります。

人口減少社会、グローバル化、デジタル社会…これから、先の社会は、さらに私たちの創造を超える変化をもたらされるかもしれません。

しかし、そうした社会においても、いや、そうした社会だからこそ、自らの志を高くし、学び、解決する「人の力」を育てていくことに、大きな一歩を踏み出す必要があります。

感情、社会性、倫理感、協調性、独創性、連帯感など人でしか持ちえない特性、能力をより伸ばしていき、鳥瞰力を持って現代と未来を捉え、環境変化に対応できる想像力、構想力を持った多様な人材を、この佐賀県から育てていく。

もちろん、県立大学を1つ創ることで、佐賀県が抱える課題がすべて解決する、そのような単純な話ではありません。圧倒的に不足している高等教育機関の充実に向けては、県内の大学や短大などとも連携し、引き続き、取り組んでいく、長い道のりが待っています。

その道を切り拓くためにも、子どもたちを大切に育て、江戸末期以降、日本の教育を先導してきた佐賀県だからこそ、これからの教育の未来の扉を開く「県立大学構想」を掲げ、佐賀から新しい時代にチャレンジできる人材を育成することが、この時代に生きている私たちの使命と信じます。

1. 基本理念（建学の精神）

（1）次代を構想する人材の育成

県立大学は、新しい時代を構想することができる人材を育成します。

社会に必要とされる人材の様態は、大きく変化しています。過去の体験や価値観にとらわれるのではなく、世の中の動きを見ながら、今と将来とを鳥瞰的に考えられる人材を育成します。

また、その鳥瞰力を生かすための実務に即したスキルや情報技術に加え、倫理観やコミュニケーション能力、マネジメント能力の向上も促進します。

どのような時代になろうとも、変化に対応し、学生が社会で問題解決に取り組み、個々の成長と地域社会への貢献につながる人間力を培います。

（2）「道を究める」研究環境の創出

県立大学は、実学に資する新たな知見を探求する研究者の研究環境を創出します。

研究者の研究活動は、学問の発展、真理への到達、大学や学生の成長に不可欠です。大学組織として継続的に質の高い研究に打ち込むことができる環境をつくります。

（3）地域との共生と社会貢献

県立大学は、地域と共に歩み、地域社会と共生します。

地域の課題解決や産業振興に寄与する教育・研究を通じて、佐賀県の発展に貢献します。地域のニーズを理解し、地域の発展を支える人材の育成と持続的な学びの機会の提供に努めます。

（4）チャレンジし、成長し続ける大学

県立大学は、新たなチャレンジを繰り返し、成長し続けます。

今から作る大学だからこそ、チャレンジを恐れず、未来を見据えた唯一無二の大学を目指します。県立大学自体が鳥瞰力を持ち、時代を先取りした実践的な教育、研究に取り組み、チャレンジを続けます。

これらを実現することにより、若年層や社会人に対する学びの確保、佐賀県をけん引する人材の確保、佐賀発のイノベーションの創出などの佐賀県の長年の課題の解決にも寄与します。

2. 大学の名称

佐賀県立大学（仮称）

3. 育成する人材イメージ

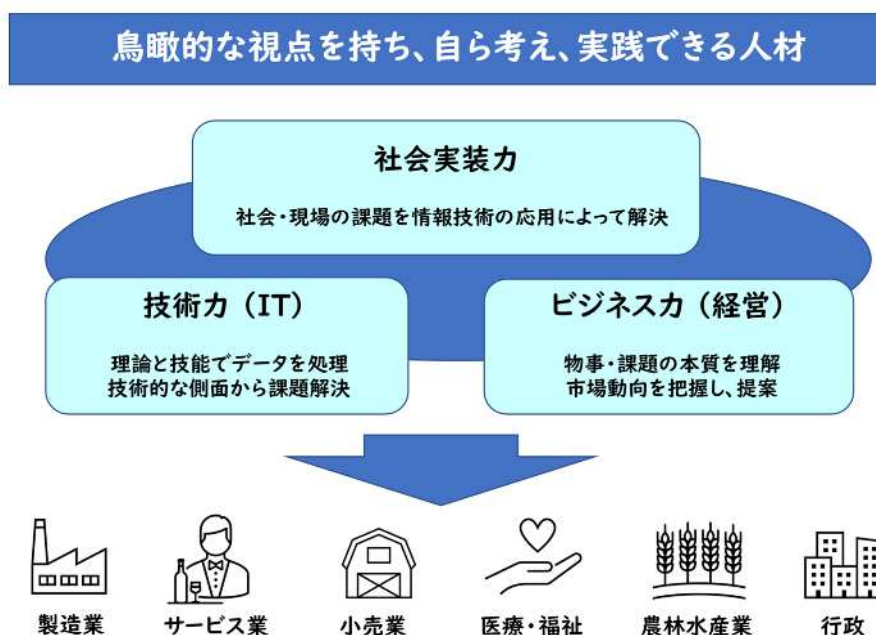
時代の要請に応え、鳥瞰的な視点を持ち、自ら考え、実践することのできる人材として、次の3つの能力を持つ人材を育成します。

- 社会や現場の課題を理解し、解決できる構想力、行動力、柔軟性、コミュニケーション能力などの人間力を活かした「社会実装力」

この「人間力を活かした社会実装力」を支えるものとして、

- IT分野を学ぶことで、理論と技術でデータを処理し、技術的な側面から課題解決ができる「技術力」
- 経営分野を学ぶことで、物事や課題の本質を理解し、市場動向を把握して、提案できる「ビジネス力」

※ 企業、業種を問わず、佐賀県内のあらゆる産業活動、具体的には、製造業、サービス業、小売業、医療、福祉、観光、飲食、スポーツビジネス、NPO活動、農林水産業、行政など幅広い分野での活躍が見込まれる。



4. 教育内容・方法

(1) 学部の構成イメージ

一つの学部に複数の学科等を設置することを予定しています。

学生は各分野の知識とスキルを習得することができます。

※ 学びの分野やカリキュラムは、時代の要請に応じて、随時見直します。

経営情報学部（仮称） ※ 入学定員 200～300 人を想定	
マネジメント分野（仮称）	経営理論や経営戦略、組織行動など、ビジネスにおける基礎的な知識とスキルを学びます。 経営理論の習得や経営戦略の策定、マーケティングや人事管理など、経営に関連する幅広い領域について学ぶことができます。
情報分野（仮称）	情報技術やコンピュータサイエンスに関する知識とスキルを学びます。 データベース管理、プログラミング、ネットワーク管理などの情報システムの基礎から応用までを学び、ビジネスにおける情報システムの活用やソフトウェア開発などに取り組むことができます。
ビジネスデータ分析分野（仮称）	経営におけるデータの収集・分析・活用に重点を置きます。 データ解析のための統計学やデータマイニング手法を学び、ビジネス上の意思決定や戦略策定にデータを活用する能力を身につけます。

(2) 特色ある教育手法

① 実践的なカリキュラム

経営や情報技術の基礎から応用までの科目に加え、実務的なスキルや知識を身につけるための科目を設置します。学生は実際のビジネス環境において問題解決やプロジェクト実施の経験や、県が取り組む各種施策と現場の関わりについても学ぶことで、実践力を養います。

また、学生は企業や団体を訪問し、現地調査やインタビューを行いながら、佐賀県の課題やニーズを把握します。これにより、課題解決に向けた実践的なアプローチを学び、地域社会への貢献意識を高めます。

佐賀県内の企業や自治体と連携し、学生が実際の職場で業務に参加するインターンシップを実施します。

② 県内企業との連携

地域の企業や産業界の専門知識や経験を持つ講師による講義やワークショップを通じて、学生は実践的なビジネススキルや地域産業に関する知識を習得します。これにより、学生は産業や経済全般に関する知識のみならず、佐賀県の産業や経済の現状や課題についても理解し、解決するための能力を身につけます。

③ 他大学との連携

県内外の他大学の学生と合同プロジェクトや研究に取り組むことで、広い視野を持つとともに、協働して解決にアプローチする能力を身につけます。高等教育機関が少ない佐賀県だからこそ、これまでになかった新たな連携にもチャレンジできます。

また、他の大学と単位互換や履修科目を卒業単位認定することなど県内外の大学への国内留学の制度を設け、学びの幅を広げます。

5. 場 所

「県立大学の基本的な考え方」に沿って、検討を続けます。

6. 開学時期

令和10年4月以降を目途とします。

7. 運営主体

県立大学は、公立大学法人により運営します。

自主・自律的な環境のもと、魅力ある教育研究を積極的に展開することができます。

また、大学の運営に学生の意見を積極的に取り入れるとともに、学生が実際に運営に参画できる環境を整えます。

8. 佐賀県出身者の受け入れ

地域枠や実業高校枠の設定や、県内高等学校に県立大学附属のコース・クラスを設置することなどにより、県立大学で学びたい県内の志ある生徒を受け入れます。

また、県内から入学する学生に対し、一定の要件のもと、入学金・授業料の減額や無償化など経済的負担を軽減します。

9. 「新しい大学像」への挑戦

(1) キャリア教育・就職支援

佐賀県庁の取組と一体化したキャリア教育・就職支援を行います。

産業、教育、就労支援などの県庁の各部門の取組と連動した就職支援体制を構築し、学生が希望する県内企業への就職等を支援するとともに、県内の様々な産業の人材ニーズに対応します。

(2) リカレント教育

佐賀県は、高等教育機関が少ない状態が続いています。

学びは、人生を豊かにするものです。県民の「もっと学びたい」「学び直したい」という意欲を満たすため、学びの機会を生涯を通じ提供する大学を目指します。

(3) 子どもがふだん使いできる大学

子どもの知的好奇心や学びに関する探究心を満たし、大学とはどのような場所なのかを実感し、学ぶことの意味を身につけることは、その後の成長・育成の中で、大きなプラスになります。

大学が閉ざされた場所ではなく、子どもたちにとっても「未来の扉」となるよう、大学内で小学生の授業を行うことができるなど、キャンパスを積極的に開放し、大学生に限らず小中学生や高校生がふだん使いできる大学を目指します。

10. その他

大学院の設置

研究環境の創出につながる大学院について、設置を検討します。